別記

（書式１）【候補者用】

① 立候補者の姓名と所属	井上　知也 みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 サステナビリティコンサルティング第２部
② 立候補の理由と抱負（400 字程度）	私は 2007 年に本学会に入会して以来、約 15 年にわたり、様々なリスクの視座に触れ、リスク学の深淵さに興味を深めてまいりました。リスク学は一般にはネガティブなトピックとして捉えられがちですが、最近では企業の成長や持続可能性に関連する文脈（サステナビリティ課題）でも捉えられるようになっています。具体的には、気候変動から始まり、生物多様性、資源循環、化学物質管理などの課題として、各企業は明確な対応を求められています。これらの課題に対処するためには学際的な視野の広さが求められますが、専門家でさえそれを持つことはなかなか簡単なことではありません。本学会の設置趣旨でもある“専門分野を超えたリスク研究の相互理解と協力の促進”と、それを社会実装していくことが必要だと感じています。 役員として、本学会の強みを活かし、これらの困難な課題に取り組みたいと考えています。また、私の職務上、行政・企業・研究者の方々との意見交換の機会を得てきましたので、これまで築いてきたコネクションを活かし、学会のさらなる発展に貢献していきたいと考えています。
③ 本学会における活動歴	・2007 年に学生会員として入会。以後、年次大会に継続的に活動 ・日本リスク学会奨励賞（2018 年度） ・日本リスク学会表彰委員（2020 年～現在） ・選挙管理委員会幹事（2022 年） ・レギュラトリーサイエンスタスクグループ（第 1 期、第 2 期）メンバー（2013 年度～現在） ・リスク学事典の執筆（6-13、6-14）（2019 年発刊） ・ポリシーブリーフ「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とメンタルヘルス対策の必要性（Ver.1.0）」の翻訳協力者（2020 年） ・リスク学研究への投稿論文（筆頭著者 2 件、共著者 7 件） ・年次大会での発表（多数） ・第 22 回（2009 年）年次大会（早稲田大会）若手ワークショップ主催 ・第 31 回（2018 年）年次大会（福島大会）大会実行委員 ・第 31 回（2018 年）年次大会（福島大会）企画セッションオーガナイザー ・第 35 回（2022 年）年次大会（京都大会）企画セッションオーガナイザー
④ 研究歴・職歴等（100 字以内）	横浜国立大学環境情報学府を 2010 年に修了。みずほ情報総研（株）（現・みずほリサーチ&テクノロジーズ（株））に入社し、化学物質に関するリスク評価・管理に係る調査研究に一貫して 10 年以上従事。

（書式２）**【推薦者用】**

①推薦する候補者名	井上　知也
② 推薦者の 姓名と所属	村上　道夫 大阪大学感染症総合教育研究拠点
③ 推薦理由 （400 字程度）	井上氏は、化学物質の評価・管理に関する調査研究を行政・企業・研究者から受託しているコンサルタント・シンクタンクとして当該分野の実務に 10 年以上携わっています。行政の審議会等における専門家との意見交換を通じて化学物質のリスクに精通しており、リスク学の社会実装に日々取り組まれています。また、新進気鋭のリスク評価者でもあり、学術面においてもきめ細やかで優れた能力を持つ方です。みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社に勤務する傍ら、本学会の学会誌での論文発表、年次大会での発表、企画セッションのオーガナイズも精力的に行っておられ、2018 年度には学会奨励賞を受賞されています。さらに、表彰委員会の委員として、学会員や非会員の成果を一つ一つ丁寧に精査するなど、本学会に大きく貢献していただいています。 井上氏は、日本リスク学会にとって不可欠であり、役員にふさわしい方として、強く推薦いたします。